

日本で5番目の死亡率

肝がんについて

肝がんは2014年のがん統計では日本で5番目に死亡数の多いがん腫です。約60%がC型肝炎ウイルス陽性、約15%がB型肝炎ウイルス陽性です。このため肝がんを予防するためには肝炎ウイルスの治療が最も有効です。

肝がんの発生比率（2014年統計）



早期発見には定期検査が重要です



早期には特別な症状がないため、慢性肝炎や肝硬変の方は必ず定期的に医療機関に通院し血液検査や腹部超音波、CTなどの画像検査を受けることが重要です。治療はがん腫の大きさ、個数、場所、転移の有無、肝臓の機能等から判断して治療法を決定します。外科的切除術、局所療法（ラジオ波、エタノール注入）、肝動脈化学塞栓療法、抗がん剤治療、放射線療法、肝移植があります。



主な治療方法



肝炎にかかると肝がんにかかるリスクが高まります。

肝がんを予防するには**定期的な通院と肝炎ウイルスの治療**が最も有効です。



肝炎 肝がん



肝炎の主な原因は 肝炎ウイルスの感染！

肝炎は肝臓に炎症がおり肝細胞が壊される病気です。主な原因はあとに述べる肝炎ウイルスの感染です。その他に脂肪肝や自己免疫性、アルコールなども原因になります。

肝がんは2014年のがん統計では日本で5番目に死亡数の多いがん腫です。約60%がC型肝炎ウイルス陽性、約15%がB型肝炎ウイルス陽性です。今回のBeWellはこの肝炎・肝がんについて説明します。

肝炎とは… 肝炎ウイルスの感染により肝細胞が壊される病気です。感染しても症状に乏しく、知らない間に進行し、肝硬変や肝がんにも進展します。



1. 肝炎の主な原因は肝炎ウイルスの感染!

肝炎は肝臓に炎症がおこり肝細胞が壊される病気です。主な原因はあとに述べる肝炎ウイルスの感染です。その他に脂肪肝や自己免疫性、アルコールなども原因になります。持続感染する肝炎ウイルスとしてはB型およびC型肝炎ウイルスがあります。肝炎ウイルス感染者は、日本で210万から

280万人といわれていますが、感染しても症状に乏しく、知らない間に進行し慢性肝炎から肝硬変(肝臓の細胞が壊れ肝臓が小さく硬くなり、機能が低下した状態)や肝がんにも進展する病気です。



ポイント1
肝炎ウイルス感染者は210~280万人。感染しても症状に乏しく知らない間に進行します。

肝炎ウイルスの感染

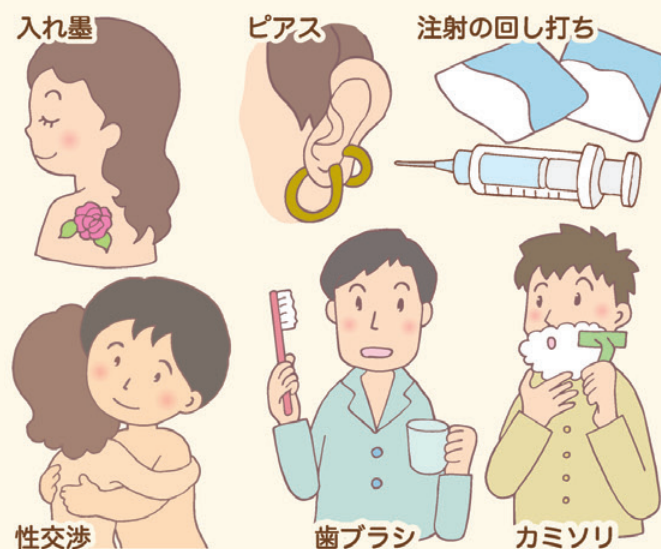
慢性肝炎

肝硬変や肝がんへ進展

2. 肝炎ウイルスの感染経路は?

ウイルスに感染している人の血液や体液により入れ墨やピアス、注射の回し打ち、性交渉等で感染します。歯ブラシやカミソリなど血液のついていいる可能性のあるものを共有することや、けがの手当てなどでも血液を素手で触る事は危険ですので避けてください。

ポイント2
肝炎は感染者の血液や体液が自身の身体に入ると感染に至ります。



3. 肝炎の診断方法は?

感染した直後は血液検査では抗体は検出されません



血液検査 → 検査結果陽性 → ウイルスを測定

ポイント3
肝炎の診断は血液検査で診断します。保健所や検査医療機関にて無料で受けることができます。



4. 肝炎の種類

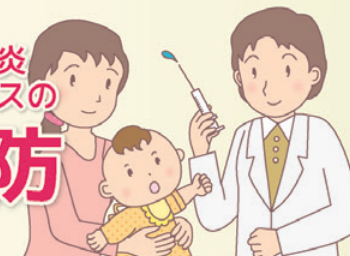
B型肝炎

B型肝炎の感染者は110-125万人と言われています。以前は母子感染や幼少時期に感染し症状がないまま過ごした後“キャリア”となり、その約10%が慢性肝炎へと進展しました。母子感染に関しては出生時に予防措置がとられ激減しました。近年、いわゆる性感染症(STD)として成人期に性交渉等から感染する患者さんが増加しており、HIVとの重複感染や慢性化しやすい欧州型のHBV肝炎ウイルス(ジェノタイプA)の増加が問題となっています。HBVウイルスは一旦感染すると完全にウイルスを排除することは困難で、ウイルスの量や炎症の状況にあわせて抗ウイルス薬の内服を行うかどうか判断します。

近年は性感染症(STD)として性交渉などから感染する機会が多い。一旦感染すると、ウイルス排除が困難。



B型肝炎ウイルスの予防



B型肝炎は免疫機能の未熟な乳幼児が感染すると、キャリアになりやすく、将来、肝硬変や肝がんになるリスクにつながると考えられています。平成28年10月1日より、B型肝炎予防接種が定期化され、0歳児を対象に、1歳に至るまでの間に計3回、無料で接種できます。1歳の誕生日以降は任意接種となりますが、積極的に接種されることをおすすめします。

C型肝炎

日本の慢性肝疾患(肝炎、肝硬変、肝細胞癌)の70%はHCV肝炎ウイルスの感染が原因です。治療としては抗ウイルス薬の内服治療が主体で3~6か月の内服治療を行います。近年、治療効果の高い薬剤が開発され90%以上の患者さんで肝炎が治癒します。HCV肝炎ウイルスのジェノタイプや、これまでの治療歴、現在の内服状況、肝機能、腎機能等によって治療の適応があるかを判断し、適切な薬剤を選択します。

抗ウイルス薬が強い味方なの



肝炎治療に対する医療費助成制度について

B型およびC型肝炎の治療に対して収入に応じた助成金制度が利用できます。申請時の診断書作成が必要ですので肝臓専門医を受診しご相談ください。

